



月刊えるでは市民活動（NPOやボランティア、地域活動など）で活躍中の方々を少しずつご紹介していきたいと思っています。

これらの活動で出会える・触れ合える・学べる、そしてつながるを応援します。

今月のイチオン



国際交流フォーリナーサポートクラブさん

フィリピン貧困地域の子どもたちへランドセルや楽器等を寄贈し、支援活動が続けられている団体さんです。
代表の松井小百合さんにお話しを伺ってきました。

活動のきっかけを教えてください

2004年、インドネシア・スマトラ沖地震をきっかけに、2005年にフォーリナーサポートクラブが発足しました。

フィリピン貧困地域の子どもたちの支援をする活動は5年前にフィリピンで大きな台風被害があり、知人の方から、「自分達にできることはないか」と相談を受けたことからですね。毎年、支援活動が続けています。

支援活動とは

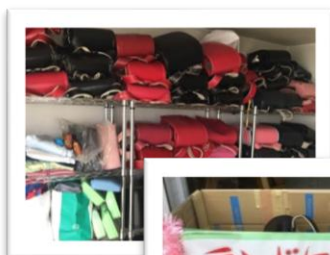
フィリピンの貧困地域の子どもたちへ、大牟田の子どもたちが使用を終えたランドセルや夏服・楽器（鍵盤ハーモニカ等）・学用品などを贈る活動をしています。

ランドセルなどは

どこに持っていけばいいんですか

東新町のお店「モルフェ」の入り口にBOXを設置しています。また小学校の卒業式頃の3月中旬から春休みの期間に市内のホームセンターの協力を得て店舗前にBOXを置かせて頂いたりもしています。市内のPTAなどを通して協力される方もいますね。

ランドセルは年100個ほど集まり、フィリピンへの輸送を年に3・4回実施しています。平成30年度は4月に1回目の梱包作業をし、段ボール2箱分をフィリピンに送ることができました。



収集活動で困ることは

新聞などで活動を紹介して頂いた後には、市内外から問合せがあり、遠くからきれいに梱包してランドセルを送っていただく方もいれば、破れたり、シミやカビだらけの夏服や、かかとの取れた靴などをBOXに置いて行かれる方もいらっしゃいます。フィリピンの子どもたちはランドセルや夏服などをもらって「クリスマスとお正月がいっぺんにきたみたい」と目を輝かせて喜んでくれます。私たちが使用を終えたものでも、子どもたちを笑顔にできるものを贈りたいですね。

一番ネックになっていること

毎年活動が続けていますが、フィリピンに送る輸送費が一番の問題です。日本からフィリピンに送る輸送費はランドセル1つあたり約1000円かかります。今は様々なイベントで募金活動をして何とか費用を賄っています。

イベントでは、タイのネイルダンスやフィリピンの歌などを披露したり、小中学校に出向き平和学習「命の紙芝居」を上演したりしています。



今後の目標を教えてください

今、日本では小学校入学時には多くの子どもたちが当たり前のようにランドセルを新調されます。そして学校を卒業をするときにはその子どもたちにはいらないものとなってしまいます。子どもたちには「自分たちが使用を終えたものはフィリピンの子どもたちへプレゼントするんだ」という気持ちで、大切使ってもらいたい。また親御さんにも普段の生活の中で「物を大切にする」ということをお話してもらいたいですね。

大牟田の小学校からフィリピンの小学校へ

このサイクルができるようなPTAの活動をしていただけたらと思います。

最後にPRをお願いします

普段の活動場所は原山町の「地域活動センターふれあいの森 あじさい」さんと、ネイルダンスの練習やクラブのミーティングをしています。活動や、ネイルダンスに興味のある方、一度見学されませんか。また生涯学習ボランティア登録派遣事業「まなばんかん」にも登録しています。こちらからもお問い合わせください。

問合せ先 松井 小百合 (090-8406-

6583)